

最終章・ゆとり教育世代の地域教育

あつし塾長の

子のやる気 親の気づき

〇〇80



創業間もないころ、送迎の際に立ち寄りられたお母さまに「迎えの車の中は、今日も塾長からこんな話を聞いてきたよと親子の会話が、いつも楽しみです」と感謝の言葉を頂きました。私はそのとき、塾の使命は地域社会に「学習の場」を提

ゆかいな教室

供しながら、家庭に「幸せな時間」を提供すること気づきました。そのためには、日々勉強するたびに「分かった」という感動を味わってもらうことが大切だと。そして私は社是を「笑顔と感動を」使命を「ゆかいな教室の創出」と定めました。

志学塾は当初から、大幅な成績向上や難関大学、トップ高への合格実績は容易に実現で

「一斉個別方式」を確立

まう子は珍しくありませんでした。ゆとり教育世代にな

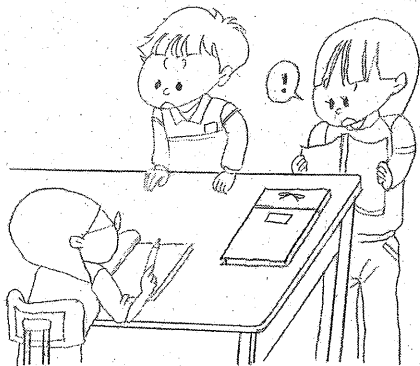
きました。しかし、学校のようは一斉に講義をする授業方式だったので塾生全員の成績を大幅に向上させるには限界がありました。特に志望校など勉強の「目標とメタ」が定まらない子どもたちの自律心を伸ばすことは非常に難しいことでした。ご家庭からは「やる気を見せてほしいのです」という相談をよく受けたものです。

当時、やる気のない子は塾でも集中力が散漫でした。字も粗雑、丸付けもいい加減で、答案に「菅原道真」を「菅原」と書いていても〇(丸)をしてし

の要素を取り入れた学習空間「ゆかいな教室」を作り出します。一人一人が、脱衣、身体を洗い、湯船に漬かり、着衣するまで一連のルールにのっとり、しかも「きれいに身体を洗おう」と自ら意欲を持つように。そして、治すべきところは医師が治療したり手術したりします。

「指導者の言葉」「子どもの役割」という四つの要素が相互に作用する必要があると考えています。そして、先生が問題を解いてみせるだけの「一斉授業方式」や面倒見のよさでスキルの低さをカバーせざるを得ない「個別指導方式」ではなく、一人一人のやる気向上させ自律的に学習す

る「一斉個別方式」が元気に「行ってきまうたら」塾でこんなことを聞いてきたよ！「法」を確立しました。「ゆかいな教室」は、一人じゃないから頑張れる時空間であり、そこには一人一人の役割を認める指導者たちの言葉が満ちあふれています。



by yoriko

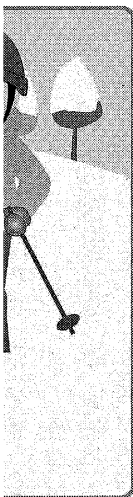
「八の字で」と言っても、幼児には理解せん。「前がグーでパー」としゃんけりながら「スキーでお山さんを作ろう呼び掛けたりします少しずつでもでき

「できるはず」を大切に

教育

子どもと親のほいほい方が伸びるものです。ただ、最初から何もしな

す



小さな子で包丁を持ら？ ほん大人が慌ててり上げようとのではなか。ところが写真家小林んさんと妻のイター渡辺(三ひは、一人レンちゃん(歳)に包丁を一緒に料理をブログに紹

4

が出版社のり、レシピ本らのキッチンだってこんる！(岩崎365円)た。

